福岡市バドミントン協会創立 40 周年記念誌

福 岡 市 バ ド ミ ン ト ン 協 会
40 年 の 歩 み

FUKUOKA CITY

BADOMINTON

ASSOCIATION

仲間で築いた福岡市バドミントン協会の絆と歴史

バドミントンの仲間は人生の宝、誇り

設立年月日　１９７０年（昭和 45 年）４月１日

2010 年 10 月 3 日

目　　次

I.　　会長挨拶（佐々木会長）

II.　　福岡市長祝辞

III.　福岡市体育協会会長祝辞

IV.　福岡市バドミントン協会歴代会長・副会長・理事長

V.　　40 年のあゆみ

VI.　寄稿文

VII.　登録団体一覧

VIII.　福岡市バドミントン協会規約

IX.　福岡市バドミントン協会専門委員会設置要項

X.　　福岡市バドミントン協会組織図

XI.　　平成 21・22 年度　福岡市バドミントン協会役員名簿

あ い さ つ

福岡市バドミントン協会
会　長　**佐々木　　徹**

このたび、福岡市バドミントン協会が創立４０周年を記念して、「福岡市バドミントン協会４０周年記念誌」を発刊することになりました。これまで本協会の充実発展に御尽力いただきました方々に、衷心より感謝申し上げますとともに、その功績に敬意を表す次第です。

福岡市バドミントン協会は、昭和４５年に設立され、歴代の会長をはじめ関係各位の献身的な努力により発展を続けてまいりました。現在では、１３９加盟団体と２，７００人余りの登録会員を擁する、県内市郡協会の中でも最も多い協会に発展し、バドミントン競技の普及振興と競技力の向上に努めております。

近年、都市化や少子高齢化の進展など、社会環境や人々の生活様式が変化する中、健康の保持増進や体力の向上はもとより、青少年の健全育成や生きがいづくりなど、スポーツは大変意義深いものであります。

特に、バドミントン競技は、子どもから大人まで、そして競技志向の方から楽しみの志向の方まで、多くの方がニーズに応じて楽しめるスポーツであり、近年の人気上昇に伴い、福岡市においても多くの方々がバドミントンを親しんでおります。

今後も（財）福岡市体育協会をはじめ、関係機関の御支援・御協力をいただきながら、さらに組織の充実発展を図るとともに、生涯スポーツと競技スポーツ両面の調和を図り、市民のニーズに応じた事業を展開していかなければならないと考えております。

終わりに、本誌の編集にあたり、ご寄稿並びに資料提供いただきました皆様に心から感謝の意を表しまして発刊のあいさつといたします。

祝　　辞

福岡市長
吉　田　　宏

福岡市バドミントン協会が創立４０周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

福岡市バドミントン協会は、昭和４５年１月に設立されて以来、本市におけるバドミントン競技を統括、代表する団体として、バドミントン競技の普及発展を図り、本市におけるスポーツの振興並びに地域の活性化に多大な貢献をいただいておりますことに、心より感謝申し上げます。

少子高齢化の進展、生活水準の向上、余暇時間の増加など、私たちをとりまく社会環境が日々変化する中、個々人の心身の健全な発達に対してスポーツの果たす役割は、ますます大きくなっており、貴協会が４０年にわたって活動を継続されてこられたことは、誠に意義深いことであり、今後とも、地域スポーツの振興に限らず、明るく活力に満ちた社会の実現に寄与されることを期待しております。

本市におきましても、市民の皆様がスポーツを通じて相互の交流を深めるとともに、その生涯にわたって、心身共に健康で活力ある生活を送ることが可能となるよう、市民スポーツの振興に関連してさまざまな事業を積極的に展開しておりますので、引き続き貴協会からのご支援とご協力をお願い申し上げます。

最後に、これまで、福岡市バドミントン協会を支えてこられた多くの指導者をはじめとする関係各位のご尽力に対しまして深く敬意を表しますとともに、貴協会のますますのご発展を祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。

祝　　辞

財団法人福岡市体育協会

会　長　**河　部　浩　幸**

福岡市バドミントン協会が創立４０周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

貴協会は、昭和２４年４月、その前進であります福岡県バドミントン協会福岡支部（福岡地区バドミントン協会）として誕生し、昭和３７年１月の福岡市体育協会発足と同時に加盟いただいております。

その後、昭和４５年４月に福岡市内の団体・個人のバドミントン愛好者によって、「福岡市バドミントン協会」が創立され、今では、体育協会の中でも屈指の正会員数となっておられます。

また、かねてより、数々の国際大会、全国大会等の運営にも大きな役割を果たされており、韓国釜山市と定期的に交流試合を続けられるなどバドミントンを通して、スポーツの国際交流にも貢献されておられ、バドミントン競技は、今日まで多くの市民に親しまれる身近なスポーツとして目覚ましく発展しているところでございます。これもひとえに歴代の協会役員及び会員の皆様のご尽力の賜と、心から敬意を表したいと存じます。

近年の少子高齢化の進展、様々な社会環境の変化の中で、体力向上や健康の維持増進はもとより生きがいづくりなどスポーツに対する期待は年々高まっており、また、市民の方々のスポーツ活動におけるニーズも多様化する中、体育協会においても、生涯スポーツ及び競技スポーツの積極的な推進やスポーツを通した子どもたちの健全育成に努めているところでございます。

今後とも貴協会の皆様には、一致団結のもと、充実した活動を展開されますとともに、バドミントンを通して健康と体力の維持向上に励まれ、市民スポーツの更なる普及発展にますます活躍されることを期待しております。

最後に、福岡市バドミントン協会４０周年を契機とされて、貴協会の益々のご発展と会員の皆様のご活躍、ご健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

Ⅳ.　福岡市バドミントン協会　歴代会長・理事長

1　　設立年月日

　　１９７０（昭４５）年４月１日

2　　歴代会長

　初代　　四島　　司（昭 45 年 4 月～昭 59 年 3 月）
　２代　　辰市　祐昭（昭 60 年 4 月～平 13 年 3 月）
　３代　　下村　　武（平 13 年 4 月～平 19 年 3 月）
　４代　　佐々木　徹（平 19 年 4 月～現在）

3　　歴代副会長

　初代　　真崎　寿昭（平 17 年 4 月～平 21 年 3 月）
　２代　　秋山　晴一（平 19 年 4 月～現在）
　３代　　佐竹　養一（平 21 年 4 月～現在）
　４代　　古川　英昭（平 21 年 4 月～現在）

4　　歴代理事長

　初代　　後藤　　研（昭 45 年 4 月～昭 48 年 3 月）
　２代　　増田　靖文（昭 48 年 4 月～昭 50 年 3 月）
　３代　　木下　一郎（昭 50 年 4 月～昭 52.年 3 月）
　４代　　伊藤　篤治（昭 52 年 4 月～昭 54 年 3 月）
　５代　　増田　靖文（昭 54 年 4 月～昭 56 年 3 月）
　６代　　市川　之善（昭 56 年 4 月～昭 58 年 3 月）
　７代　　副島　　力（昭 58 年 4 月～昭 62 年 3 月）
　８代　　市川　之善（昭 62 年 4 月～平　9 年 3 月）
　９代　　緒方　蓉子（平　9 年 4 月～現　在）

Ⅴ．　４０年のあゆみ

１．福岡市バドミントン協会の沿革

福岡市バドミントン協会の母体である福岡県バドミントン協会福岡支部（初代会長：西園富吉、初代理事長：中村高治）は、１９４９年（昭和２４年）４月に小倉支部・久留米支部とともに福岡県バドミントン協会の支部として設立された。

バドミントン競技は戦後新興のスポーツであるため、いまだ一般市民の認識も低く、バドミントン活動の主体はごく一部の実業団や大学に限られていた。また昭和３０年に入ると、それまで敗戦後の生きることに必死であった日本社会に少しずつではあったが、心に“安らぎ・ゆとり”が出来始め、大人も遊び感覚としてラケットを握る時間ができた。家庭電化時代（三種の神器－電気洗濯機・電気冷蔵庫・電気掃除機）と言われた頃である。

このような社会環境であつたが、協会関係者はバドミントンの普及発展のために尽力し、１９５７年（昭和３２年）には市民大会、社会人大会及び実業団大会を開催するまでに至っている。

１９６０年（昭和３５年）４月１日に、福岡県バドミントン協会福岡支部規約が制定され、支部を福岡地区バドミントン協会と称することになった。そしてこの１年後には福岡地区総合バドミントン選手権大会の開催、またその翌年の１９６２年（昭和３７年）４月に福岡市体育協会に福岡地区バドミントン協会として加盟している。

東京オリンピックに日本中が感動した１９６４年（昭和３９年)、九電記念体育館完成。この頃から少しずつであったが一般社会人の競技人口が増え始めた。そして１９６９年（昭和４４年）には、東京で開催された第７回世界女子選手権（ユーバー杯）に出場したアメリカ女子チームを迎えて、日米交換バドミントン大会を九電記念体育館で開催し観衆にバドミントンの醍醐味を味合わせた。そして１９７０年（昭和４５年）４月１日、福岡地区バドミントン協会の下部組織として福岡市バドミントン協会は規約の制定とともに、発足したのである。

初代会長が四島司、初代理事長が後藤研でスタートした福岡市バドミントン協会であったが、しかしその組織は福岡地区バドミントン協会と会員も役員もほぼ重複（地区協会理事長と市協会理事長は兼務）した組織であって、福岡地区協会の事業を中心的・実質的に執り行っていたのが福岡市バドミントン協会であった。その福岡市バドミントン協会が関わった最初の大事業が日中バドミントン大会福岡大会であった。１９７３年(昭和４８年）９月に福岡市民体育館で行われたのであるが、日中国交の正常化が行われて間もない時でもあり、県警とも連絡を取り警備その他において多いに神経を使ったという。

インドアスポーツであるバドミントン競技にとって体育館は欠かせないが、福岡市内の小学校に体育館ができはじめたのが、昭和 30 年～40 年代。これによって小学校の体育館を利用してのバドミントン教室が行われたり、また加えて公共の体育館が出来始めたのが福岡市が政令指定都市になった 1972 年（昭 47 年）頃からで、福岡市民体育館（昭 47 年)、ももちパレス（昭 48 年)、福岡市立東体育館が（昭 52 年）と福岡市下各 5 区に随時体育館が建設されていき、一気に競技人口が膨れ上がった。

すなわち、それまで大学、官公庁、実業団主導型であったバドミントンがそのような公共の体育館や公民館サークルとして小学校の体育館を利用する一般社会人や家庭婦人の多数参加型バドミントンに移行していく事になったのである。

福岡市バドミントン協会に 1975 年（昭 50 年）に協会事業の運営の円滑化を図ることを目的に指導委員会・審判委員会・普及委員会が設置されているが、このような環境の変化とバドミントンがとりわけはじめての人にも馴染みやすいスポーツであることもあって、バドミントン人口が年々増加していった。そしてバドミントン人口の増加と福岡市周辺郡市町村へのバドミントン競技者の分散化にともない福岡地区バドミントン協会と福岡市バドミントン協会のそれぞれの事業が質量共に変化増大し、1983 年（昭 58 年）に福岡地区バドミントン協会理事長と福岡市バドミントン協会理事長の兼務を止め、それぞれに運営することになったのである（昭 57 年度福岡地区バドミントン協会評議委員会決定)。

その 1983 年（昭 58 年）に福岡県バドミントン協会に 7 年後の開催となるとびうめ国体に向けて強化委員会が設置され、福岡県全体が国体に向けて始動。そして 1985 年（昭 60 年）年 4 月、辰市祐昭が福岡地区バドミントン協会および福岡市バドミントン協会会長に就任し、福岡地区で開催されるとびうめ国体に向けての体制づくりを積極的に推進していった。

1990 年（平 2 年)、とびうめ国体が筑紫野市で開催され、成年女子優勝、総合第 2 位という好成績を福岡県バドミントンチームが収めたことは、福岡県協会は勿論のことだろうが福岡市バドミントン協会関係者そしてお手伝いをしていただいた福岡市民にとっても忘れられない思い出となった。

このとびうめ国体前後からこれまで福岡市において大規模大会が開催されている。1987 年（昭 62 年）の第 9 回日本リーグ福岡大会（於：福岡市民体育館)、1991 年（平 3 年）の第 13 回日本リーグ福岡大会（於：福岡市民体育館)、1994 年（平 6 年）の第 44 回全日本実業団バドミントン選手権大会（於：福岡市民体育館ほか 3 会場)、1995 年（平 7 年）の第 41 回全九州社会人バドミントン選手権大会（於：アクシオン福岡)、1997 年（平 9 年）の第 14 回全日本シニアバドミントン選手権大会（於：福岡市民体育館ほか 2 会場)、1999 年（平 11 年）の第 33 回全国ろうあ者バドミントン大会である。いずれも福岡市バドミントン協会主催事業ではないが、

しかしながら開催地が福岡市ということで福岡市バドミントン協会が主体的に要の役割を果たしてきた。

また福岡市バドミントン協会主催事業として、国際交流においても釜山広域市金井区バドミントン連合会との交歓会も今年5月で第8回を迎える事が出来、㈶福岡市体育協会主催事業の日韓高校生交流会（於：釜山広域市体育館）を２回開催してきた。

今年１１月に㈶日本バドミントン協会主催事業の福岡県で行われる全日本シニア選手権大会の３０代の男女の試合を福岡市バドミントン協会が主管することになっている。

２．福岡市バドミントン協会の現況

１９９７年（平９年)、初の女性理事長として緒方蓉子が就任。協会を構成する総務委員会・競技委員会・指導委員会・審判委員会・普及委員会も新たな顔ぶれでスタートした。現在は総務委員会・競技委員会・指導委員会・審判委員会の４専門委員会にて運営されている。総務委員会では財務（予算・決算・経理）の確立、登録業務などの組織運営、事業の案内と会議召集、協会の広報等協会の母親的存在としてその重要な役割を果たしている。競技委員会では各種大会の企画・開催・運営など競技に関する最も重要な中枢に関わっている。指導委員会ではバドミントンの指導講習会にとどまらず、いかに指導すべきかといった指導者の講習会も行っている。しかもジュニアや家庭婦人などといった対象者別の細かな内容で参加者も多い。またジュニアクラブの実態調査や加盟登録団体の調査を行い現状把握に努めている。審判委員会では審判講習会の開催を行い、バドミントン競技規則や大会運営規程の変更時にその変更点について講習を行っている。また審判員の育成を行い、審判員の組織的強化を行っている。

１９９７年6月創刊の福岡市バドミントン協会広報誌は２００１年から始まった当協会のホームページの充実に伴い、インターネットで評細な協会の情報提供するにいたって、NO.１６を持って休刊とした。

URL：http://www.u-zak.ne.jp/FBA-C

２００７年に第４代佐々木徹会長が就任し、現在に至っている。尚、当協会の規模拡大に伴って佐々木会長を補佐する為、２００９年より副会長を３人体制すると共に、理事長を補佐する為副理事長の役職を新たに設けた。

福岡市バドミントン協会の協会規約の第４条の［目的及び事業］の本会は、福岡市内におけるバドミントン界を統括し、代表する団体としてバドミントンを振興し、その健全な普及発達を図ることを目的にする。この目的を達成するため、会員の皆様のご協力を得ながら、執行部並びに役員一同日々誠実に着実に鋭意努力しているところです。今後とも皆様のご支援と、ご助力の程宜しくお願い致します。

現在、福岡市バドミントン協会が主催している事業を紹介する。

競技

福岡市民春季バドミントン大会
市民総合中学生大会
全日本ジュニア選手権大会福岡市予選会
福岡県民体育大会選手団選考会
福岡県小学生夏季大会福岡市予選会
クラブ対抗会
市民総合小学生大会
市民総合各区大会
福岡市中学生大会団体戦
市民総合区対抗団体戦・粕屋郡協会交流
第１回記念トリプルス交歓会
九州 in 福岡シニア大会
全日本選手権大会兼福岡県中学生選抜大会福岡市予選会
福岡市中学生初心者大会
フクオカ選手権大会
福岡県小学生選抜大会
福岡市中学生選手権大会
福岡地区高校生学年別選手権大会

講習会

トリプルス講習会
親子教室
指導者研修会

福岡県バドミントン協会主催・主管

審判講習会
福岡県社会人選手権大会
ジュニア強化練習会
中央体育館　年間２回
福岡市養護学校　毎月１回　　小学生６回、中学生６回

国際交流

韓国釜山広域市金井区バドミントン連合会

㈶福岡市体育協主催事業の日韓高校生スポーツ交流

外部依頼事業

福岡障がい者オープン大会

全九州中学生大会

全日本シニア選手権大会

スポーツ教室

㈶福岡市体育協会主催事業［初心者バドミントン教室］

㈶福岡市体育協会主催　チャレンジジュニアスポーツバドミントン教室

2000 年　国際交流　ソウル

サムソン体育館見学

2004 年　国際交流　高校生

歓迎式

交流会

歓迎レセプション

下村会長/釜山協会顧問 CHUL SOO HONG 氏

2004　市民総合小学生

2005 体協表彰式

2006 フクオカ選手権　ラケットが当たりました♪

2006 ラリーポイント講習会

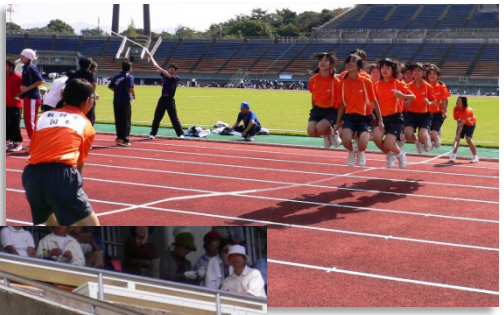
2006 県体結団式

2006 国際交流釜山金井区連合会

2006 市民総合区対抗戦

2006 市民総合小学生

2006 市民総合総合開会式



2006 春季小中学生

2006 年　第48回中学生　九電体育館

2006 年 5 月浅見先生をお迎えしてシステム研修会

2007 小学生大会

2007 中学生選手権

2007 年審判講習会

2007 理事会

2008 クラブ対抗戦

2008 シニア九電記念体育館

2008 親子教室

2008 福岡選手権

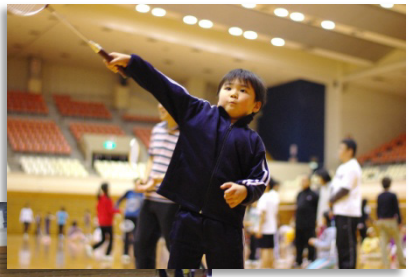
2008 国際交流釜山広域市金井区

2009 国際交流釜山広域金井区連合会

2009 国際交流友情年

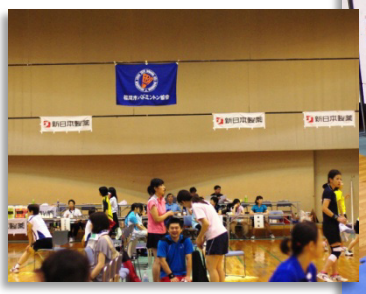
2009 審判講習会

2009 親子教室



2010JOC 予選会　城南体育館

2010 クラブ対抗戦　新日本製薬カップ



2010 釜山高校生

2010 釜山-福岡 青少年 SPORTS 交流大會
2010. 8. 17 ~ 8. 19. 釜山廣域市體育會·福岡市體育會

2010 釜山-福岡 青少年 SPORTS 交流大會

福岡 青少年 SPORTS 交流大會

釜山-福岡 青少年 SPORTS 交流大會

2010 国際交流釜山広域市金井区連合会

2010 市総小学生

2010トリプルス講習会

2010 地区高校生

Ⅵ. 寄 稿 文

「創立４０周年にあたって」

◇　福岡市バドミントン協会前会長　堤クラブ　　下村　武　◇

創立４０周年おめでとうございます。

私とバドミントンの出会いはもう半世紀も前、昭和３２年大学の部活に入部したときでした・・・それ以来、いろいろな方々との出会いを大切に、ラケットを握り続け「いつまでも青春」を合言葉に、先輩、同輩、後輩、バド仲間等と楽しく愉快に付き合い酒を酌み交わし現在に至っております。

私の堤クラブも創部３３年経過しましたが、その間創立者の加冷先生を失い、また創立にご尽力いただいた市川先生（前市協会理事長）をもこの七月四日に失いました。寂しい限りです。

さて一番の思い出は、昭和６０年１１月に城南区協会設立に佐竹氏（県協会理事長）をはじめ、各クラブ全員の強力な支援を得て城南区協会を設立し、そして第１回大会を全会員の参加で成功履に終わったことです。

この喜びと感激で各方面との連携ができ、バドに情熱を注ぐ一因になりました。

市協会におかれましては、この４０年間の地道な普及活動の賜物で県内最大の組織となり、ジュニアからシニア迄の多くの会員を擁し、生涯スポーツとチャンピョンスポーツとの調和を図りながら、会員のニーズにあった事業を展開していただき更に飛躍されますことを願っております。今後も微力ながら応援していきたいと思います。

◇　福岡市役所バドミントン部　部長　堤　直行　◇

福岡市バドミントン協会創立４０周年おめでとうございます。

福岡市バドミントン協会も加盟団体が１３０を数えるまでになり、ジュニアからシニアまで多くのバドミントン愛好者を底辺で支え、組織的にも各専門委員会が十分に機能して、現在では韓国釜山市との国際交流を行うなど幅広く活動されております。

これは創立当時から今まで協会関係の多くの先輩方が福岡市のバドミントン競技の普及発展に努力されてきた賜であると心から敬意を表します。

私ども福岡市役所バドミントン部も当然のことながら協会設立時から歩みを一にして来ました。おかげさまで昨年、「福岡市役所バドミントン部５０年を語る夕べ」という会を催すことができましたが、これも福岡市バドミントン協会の皆様、多くのバドミントン愛好者のお陰だと感謝しております。

今後も福岡市バドミントン協会とともに福岡市のバドミントン界がさらに発展することを祈念しましてお祝いの言葉と致します。

◇　福岡市立障がい者スポーツセンター　館長　淵上　忠喜　◇

福岡市バドミントン協会及び会員の皆様におかれましては、創立４０周年の記念すべき年を迎えられましたことに、心からお祝いを申し上げます。

貴会は、設立以来長きにわたり、福岡市のバドミントン競技の普及発展に取り組まれ多大な功績を残されるとともに、多くの市民に親しまれ、競技技術の向上に尽くしておられます。このことは、貴会の皆々様のこれまでの弛まぬご努力と熱い情熱の成果と拝察申し上げ、深く敬意を表します。

また、障がい者のバドミントンにおきましてもご理解とご協力を頂き、私どもが主催する市民総合スポーツ大会の一環である「福岡障がい者オープンバドミントン大会」の運営に暖かいご支援とご指導を賜っておりますことに、厚くお礼を申し上げます。お陰をもちまして、この大会も今年２０周年を迎えることが出来、これもひとえに貴会のご援助のたまものと存じております。

バドミントンは、人に障がいがあるなしに関わらず、誰にでも楽しめる生涯スポーツの一つでございます。私どもも、市内唯一の障がい者スポーツ施設として、その振興に努めてまいりますので、今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げ、最後になりましたが、貴会及び皆様のこれから益々のご健康とご多幸並びにより一層のご躍進を心から祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせて頂きます。

◇　西区　　浦 哲雄　◇

福岡市バドミントン協会４０周年おめでとうございます。

私がバドミントンを始めたのは障害者になってからでした。福岡市の大会にいつも選手として参加させていただきたくさんの事を学びました。障害者バドミントンの世界チャンピオンになるという夢が叶ったのも、生まれ育った福岡市で健常者の中で闘う機会をいただき、切磋琢磨させていただいたおかげと、深く感謝しております。

また、毎年６月に開催される福岡障害者オープンバドミントン大会では、福岡市バドミントン協会の方々に運営協力をいただき、障害者のオープン大会としては、全国から参加者が来福し、盛況でレベルの高い大会として障害者バドミントン選手の中で評判の大会となっています。重ねて御礼申し上げます。

さて、今年は１２月に中国・広州でアジアン・パラリンピックが開催されます。日本代表として精一杯闘ってきますので、声援よろしくお願いします。

今後も福岡市バドミントン協会の発展を心より祈っております。

「市協会４０周年」

◇　東区　副島　武　◇

福岡市バドミントン協会の創立４０周年おめでとうございます。

おかげさまで私共の千早バドミントンクラブも、既に３２年になりました。始めた当時は、福岡市と福岡地区の協会が別々にあり、私も数年後には理事として両協会にかかわることになりました。協会にかかわってみてその歴史の浅いのに驚きましたが、それだけマイナーなスポーツであったわけで、発足にあたっての先輩諸氏のご苦労がしのばれました。数年後の「とびうめ国体」準備のため人手が足りず、２年目には何も分からないまま競技委員長を任され、関係の方々にいろいろご迷惑やご心配をかけたことを思い出します。おかげで国体役員という貴重な体験もさせていただき、一生の思い出となりました。

理事の方々をはじめ関係者のたゆまないご努力により、この日を迎えることとなりましたが、１００年２００年とさらなるご発展をとげられることを心から願っております。

◇　香椎浜バドミントンクラブ　　嵩下京子　◇

４０周年記念おめでとうございます。 ４０年前と言えば私が生まれた歳です。４０年間この福岡市のバドミントンを支えて来られた方々は素晴らしいと思います。これからも、ジュニア育成から社会人大会まで幅広くの活動頑張って下さい 。福岡市バドミントン協会あっての私達の活動なので影ながら応援させていただきたく思います。

「バドミントンの思い出」

◇　城南区　　藤田　恭伸　◇

それは校区に小学校が新設開校された４０年ほど前に遡る。福岡市バドミントン協会創立の数年後である。学校付設の講堂兼体育館の夜間・週末の開放に対する利用希望サークルが募集された。応募の中にバドミントンが含まれていた。責任者は６０代半ばの公民館長で、館長の娘さんと知合いの家内にもお誘いがあった。婦女子の嗜む羽子板の洋風版がバドミントンと自認していたが、頭数合わせの手助けになればと、顔を出してみた。今考えると必然な事であるが、ご老体にけんもほろろに軽く往なされた。これが事始である。借りを返すまではと我慢する内に、シャトルコントロールの魅力に嵌ってしまった。爾来、週３回の練習は生活パターンに組み込まれることとなった。三十路過ぎのスタート、コーチ不在、我流の練習法と三拍子が揃っていたから、今もって三流の技量に留まっているが、同レベルの仲間とのプレイは楽しい。定年で職場を離れると朋友は年々減少する。しかし、バドミントンで得られた知己は年々更新される貴重な財産である。これらの仲間と何才までプレイ出来るかが共通の関心事である。

◇　西区バドミントン協会　副会長　永松 立子　◇

福岡市バドミントン協会４０周年おめでとうございます。と共に伝統を受け継いで来られた、役員の方々に、心より感謝申し上げます。

私の市協会デビューは、十数年前の県大会の予選会です。雲の上の先輩方の胸をかりるつもりで挑戦した所、たまたま、補欠に残れて、県大会へ行く事が出来ました。その折、全国大会常連の先輩方に、色々指導して頂いた事が身に成り、レディースのＡランクにも上がれましたし、九州大会年代別の県代表として出場も出来る様に成りました。

今日の私が有るのも、市協会の運営あっての事で、今は少しでも恩返しが出来ればと、協会の理事に参加しています。

これからも私なりに、西区の大会参加者が増えて行く様、頑張っていきたいと思いますので、西区共々宜しくお願い致します。

福岡市バドミントン協会の益々の発展を心よりお祈り申し上げます。

「１７ダブルス」

◇　南区バドミントン連絡協議会　会長　谷川　聡　◇

福岡市バドミントン協会創立４０周年、おめでとうございます。

数々の大会運営に際し、緒方理事長を初め、理事の皆さん、お疲れ様です。主催者側の立場は、やった事のある人にしか解らない難儀なことが沢山ありますので、つみ重ねてきた今日までのご尽力。本当に、ご苦労様です。また、感謝申し上げます。

市協会主催大会の中で、市民総合スポーツ大会、区対抗団体戦＝通称「１７ダブルス」、私は、個人的にはこの大会が大好きです！ひとつの区から選抜して１７組の年齢別ダブルスを作って総当りをする大会で、市内７区と近郊市町村から１チームを入れた８組を２リーグに分けて、１位上がりのトーナメント戦。１７組同士だから、９勝８敗以上で勝ちあがりとなる。不思議と思うのは、ここ一番の試合が勝敗の明暗を分ける時、何故か８勝８敗になっている？その最後のゲームのアリーナの雰囲気が、たまらない！ひとつのコートに、約７０～８０人の老若男女の選手が群がって、自分の区代表者のゲームを、一打一打に一喜一憂して、応援する！沢山の拍手・バンザイ！・ため息！トリになったコート内の選手は堪ったものではないと思うけど、みんな真剣に応援している。正直、目頭から熱いものがこぼれる試合もありました。相手チームに顔なじみの選手が沢山いますが、区対抗団体戦というカテゴリーがおもしろい大会だと思います。ここ２年、早良区が連続優勝しています。もう一度みんなであの歓喜を味わいたいので、声掛けあって選抜を選んで、今年も挑戦いたします！

改めまして、今後とも宜しくお願いいたします。

「創立４０周年によせて」

◇　西区バドミントン協会　前会長　川﨑　和孝　◇

福岡市バドミントン協会が創立４０周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

私とバドミントンの出会いは、今から２７年前です。公民館主催の講習会でバドミントンの楽しさの味を覚え、以後、しっかりのめり込んでしまいました。その理由の一つに、市協会主催の大会があります。日頃の練習の成果を試すいい機会となりました。合成球で行われていた初心者大会、市民戦のシングルス、そして、県民体育大会への出場と貴重な体験をさせていただきました。これもひとえに、福岡市バドミントン協会の皆様の企画・運営があったればこそと感謝しております。

今後とも、福岡市バドミントン協会がますます発展されますことを祈念いたしまして、お祝いの言葉と致します。

「ＢＡＤＭＩＮＴＯＮ　は生涯スポーツ」

◇　西区　　廣本 美秀　◇

学生の時に初めてはじめたスポーツがバドミントン。その頃はこんなに長く続けてるとは思いませんでした。時間を経て、自分の健康の為に再度はじめた運動のつもりが、学生時代よりも頑張っている自分がいます（笑）

大人になってはじめたバドミントンのおかげで、色んな人のつながりが広がり、年齢を重ねてもずっと続けられる生涯スポーツだと確信しています。

今でも楽しそうにバドミントンをしているおじいちゃま、おばあちゃまを見ると、私も出来ればそうありたいと思います。年齢にあったスポーツとしてＢＡＤＭＩＮＴＯＮをこれからも楽しく頑張って行きたいと思います。

◇　西区レディースバドミントン連盟　会長　梶原 千栄子　◇

福岡市バドミントン協会創立４０周年、心よりお祝い申し上げます。

設立以来４０年の長きにわたりバドミントンの普及と発展のため、ご苦労を賜りました歴代役員及び協会会員の方々のご尽力に感謝と敬意を表します。

近年「オグシオ」やオリンピックで活躍した「スエマエ」などの選手の活躍で、日本中のバドミントン愛好者も何らかの影響を受けた人も多かったことかと思います。

また、生涯スポーツとして大いに関心も高まり、老若男女を問わず広く普及し、愛されるようになりました。

今後とも、福岡市バドミントン協会が中心的立場に立ち、バドミントン愛好者の大きな支えとなり、次代を担う新しい世代に引き継がれ、発展飛躍することをお祈りいたします。

「思い出」

◇　南区　大池クラブ　財部　蘭子　◇

創立三年後から市民戦へ参加、三十四才だった当時体育館も少なく練習は校区の小学校。ネットを窓際にくくりつけ、ラインは広巾のビニールテープを貼った。初めて出場した市民戦、女子の部は青年女子と成年女子のみ、参加クラブも鳥飼、草ヶ江、長住クラブだけ、その後若久クラブそして次々と校区にクラブが出来ていった。合同練習もふようクラブとＡＡクラブだけ。

当時の全英オープンのチャンピオンだった竹中、相沢、湯木選手をまじかに見たり市民体育館にて中国選手団を迎えての国際試合、その強さを目の当りにした。大会前夜親善のゲームをしてもらったのが昨日の様に思い出される。家庭婦人となって三十七年間バドミントンと共に暮らして来た。その間二人の素晴らしいパートナーに出逢った。何一つ不満のない信頼し合える二人だった。お陰で数えきれない程の優勝を重ねる事が出来た。二人目の友は四十八才の若さ、白血病でこの世を去った。沢山の思い出を残してくれたが、亡くなる直前に行った九州大会、二人で眺めた沖縄の青い海が忘れられない。新幹線がまだなく寝台車で行った東京、大阪での全国大会。そして南体育館ができて二十八年、その間三十数回の初心者教室のお手伝いもした。古希を迎え何時止めようかと思い、乍ら仲間に逢えるのが楽しくて、体育館通いを続けている。

「三宅クラブの思い出」

◇　大屋　千倉　◇

東京の大学を卒業し、地元の新聞社に就職、たまたま下宿した三宅の三宅小学校に三宅クラブがあった。昭和３８年のことである。宮山昇三さんご一家、田口さんなどがクラブの世話をされており、東京 YMCA で４年間趣味で腕をみがいたバドミントンの練習が出来るようになったことは偶然とはいえ幸せであった。当時は競技する人も少なく大学や市役所にクラブがある位でマイナーなスポーツであった。最初は少人数で指導者もいないクラブだったが、白い紙がインキを吸い取るように全員がめきめき腕を上げ市内のあちこちから入会者も増え、近くの学芸大のクラブ員がうわさを聞いて練習に来る程になった。

確か昭和 38 年ゲリラ豪雨で市内が一夜で水浸しになり交通機関が一時不通になった時もほとんど全員がズボンの裾をまくりクラブに現れ熱心に練習したのも今はなつかしい思い出となった。私の記憶する限り「三宅クラブ」は南区で最初の本格的クラブではないだろうか、多くの指導者を輩出しバドミントンの普及に貢献した三宅クラブもその後体育館が使用できなくなったこともあって「福岡クラブ」と名前を変えて存続した。

最後に半世紀近くラケットをにぎり続けてきたおかげで多くの人と出会い生きがいを与えてくれたバドミントンに改めて感謝したい。

「博多区　私とバドミントン」

◇　村中　忠明　◇

バドミントンとの出会いは、１９８７年４０歳の時である。会社の後輩に振り廻されたことが始まりで、スポーツ音痴の私は熊本の２つのクラブで週３回楽しんだ。１９９６年大阪に転勤すると吹田市のバドミントン教室に入り、コーチにお父さんは初級からねと言われた“ショック”基礎から学んだ。

この土屋記巳子コーチに学んだことは一生の宝で、その中で当時のサントリーの練習に同行し、指導を受けたことも良い思い出である。そのコーチが２００９年１０月の世界シニアスペイン大会５０歳以上女子ダブルスで優勝された時は自分のことのように喜んだ。大阪では、教室と西豊津・北千里で毎日（週に１０回）バドミントンに明け暮れ。出張にもラケット持参しての滋賀大津市の出会いも楽しい思い出である。そして、２０００年に２度目の転勤で福岡に来て、住吉を皮切りに、野多目・西高宮・美野島等でお世話になり、今は住吉の皆様方と有意義に過ごしている。

いま博多区バドミントン協会のお手伝い、２００５年には3級審判員としての手伝いと62歳のいまを充実している。バドミントンは年齢・職種を問わず色々な方々と親しくして頂くのは有難い。望みは、人生最後まで現役で楽しみたいと思うところである。

最後に、色々な方々に感謝を込めて、皆さん有難う御座います。これからもよろしくお願いいたします。

◇　すせんじジュニアバドミントンクラブ　代表　中島　純　◇

福岡市バドミントン協会設立４０周年、おめでとうございます。

私がバドミントンを始めたのは１０年前でした。最初はシャトルをラケットに当てるのがやっとの状態・・・。１０年経った今、どうにかある程度のレベルには成りましたが試合ではなかなか勝てません。しかし楽しいからやめられません！

息子も４歳くらいの頃から付いて来る様に成り一緒に遊んでいました。その息子もバドミントンがしたいと言い出しジュニアクラブに入れてみようかなと思ったのですが西区にジュニアクラブが無い・・・。それに地元の声も有り、２００９年９月にジュニアクラブを設立しました。

ジュニアクラブの活動を開始して分かった事は北九州方面の方がよりジュニアクラブの活動が盛んだという事。そしてレベルも全国レベルです。その様な良いお手本が近い所にあるので、交流をさせてもらい切磋琢磨しながら「すせんじジュニアバドミントンクラブ」や福岡市のジュニアレベルが少しでも上がる様頑張ろうと思います。

この様な形で、これからもバドミントンを楽しみながら福岡市バドミントン協会を盛り上げていきたいと思います。

「初心を忘れずに」

◇　大池ジュニア　瀧本　凌太郎　◇

２年生のときにバドミントンを始めて、最初の頃は練習についていけなくて、正直練習が嫌いでした。だけど先輩たちがいつも明るくて、楽しそうに練習しているのを見ていて、先輩みたいになりたいと思いました。そこから自分の中で目標をもって厳しい練習も頑張りました。練習の中で何度か心が折れそうになったけど、コーチ達のお陰で乗り越えることができました。そしていろんな試合で結果が残せるようになりました。中学生になると試合が厳しくなるけど、小学生の時以上に頑張って結果が残せるようにしたいです。今は後輩も増えたから、小学生の時に憧れた先輩みたいに、明るく楽しく練習をして、後輩達が先輩みたいになりたいと思ってくれたら、嬉しいです。

「感　謝」

◇　大池ジュニア　　田口　裕弓　◇

私は小さい頃、母とやったバドミントンが忘れられず、両親に頼んで二年生の夏からやっとジュニアに入れてもらいました。

今中三でバドミントンを始めて約七年経ちます。小学校の頃はきつくて苦しくて泣きそうな時もありました。コーチも厳しくて、中学生ばかりの練習はとても大変だったのを覚えています。でも必死にやっているとコーチは時々、優しく声をかけてくれました。とても厳しいけどそうやって支えてくれているコーチがいることのありがたさを知りました。

私は今もバドミントンが楽しくて、大好きです。その気持ちを持っていられるのはコーチ達の存在があったからだと思っています。私はジュニアに入ってバドミントンはもちろん、人間的にも大きくなれました。だから、コーチやジュニアを支えてくれた人達への感謝をずっと忘れずにいきたいです。

「四〇周年をお祝いして」

◇　クリオクラブ　寺尾　朱美　◇

福岡市バドミントン協会設立四〇周年おめでとうございます。

バドミントンを始めてから十数年、現在のクラブに所属し、いろいろな大会に参加させていただくなかで、健康維持はもとより、会員の方々との交流を深め、楽しいクラブ活動ができ公私ともに充実した日々を過ごすことができています。これもひとえに協会及びさまざまな方々のご活躍によるものと思います。

他の会員の皆様方も同様ではないでしょうか。協会のますますのご発展を祈念しますと共に協会加盟のクラブ一員として心よりお祝い申し上げます。

◇　板付ジュニア初代キャプテン　　高田　真衣　◇

私は、小学校五年生から卒業までの二年間博多区の板付ジュニアに在籍しキャプテンをしていました。板付ジュニアは今でこそ県大会に出場するような選手がいるチームに成長を遂げましたが、発足当初は小学五年生の私達四、五名が最高学年で大会に出ても誰かが一勝すれば良い方といったかんじでした。教えてもらう側はもちろん、教える側のコーチや保護者の方々も右も左もわからない手探りの状態で始まったクラブでしたが、当時習ったラケットの握りや素振り、フットワークは今でも私のバドミントンの土台になっています。中学、高校とバドミントンを続けられたのは、バドミントンという競技に出会った時の楽しかった思い出やみんなで一からクラブを作り上げたという自信があったからだと思います。今年、板付ジュニアを初めて引退したメンバーが大学生になりました。それでも小学生時代に仲間とバドミントンをした思い出を忘れることは決してありません。

「福岡市バドミントン協会創立 40 周年への祝辞」

◇　香椎バドミントンクラブ　荒木　邦夫　◇

福岡市バドミントン協会の創立 40 周年にあたり、心よりお祝い申し上げます。

福岡市バドミントン協会の年齢と私の年齢とでは 1 年しか変わらず、まさに私が生まれた頃に、先人の方々によって貴協会が発足したことになります。当時の事は当然知るよしもありませんが、福岡市内のバドミントン愛好家の方々がバドミントンを広めよう、また何より大好きなバドミントンを楽しもうと協会を設立したことでしょう。

さて、平成 21 年度福岡市バドミントン協会総会資料によると、現在では市内登録クラブが１３９団体、個人登録が２、７１１人という大所帯になっているようです。

そんな大所帯をまとめる協会理事長並びに役員の方におかれましては、日々の忙しい中で、バドミントン競技大会や講習会の運営などで今週は市民体育館、来週は東区体育館、来月は西区体育館とまさに東奔西走されており、そのおかげで私たちバドミントン愛好家が楽しくプレーできることを忘れることなく、この機会をお借りして心から感謝申し上げます。

バドミントンは誰もが一度はラケットを握ったことがある親しみやすく気軽に楽しめる生涯スポーツであります。また、この 40 年間でバドミントン界は、プレースタイル（スピード化)、道具（ラケットの軽量化やガットテンション)、ルール（ラリーポイント制)、認知度（オリンピック競技種目)、人気（オグシオ、スエマエ効果）と日々進化しています。

貴協会もその時代の変化に対応していくことは大変なこととは思いますが、今後ともバドミントン界の振興と普及に益々ご活躍されることを祈念しまして、お祝いのことばといたします。

「博多区４０周年記念のメッセージ」

◇　博多区バドミントン協会　　藤川　隆子　◇

四十周年おめでとうございます

博多区は他区に比べ出足が遅く、昭和六十二年に初代会長　千歳様、深川様、と私の三人で発足致しましたが、多事多難で低迷し、周りの方々のアドバイス、その後の栗原会長の尽力で立ち直り、現在の高村会長で、円滑に進展して、私二十七年間微力乍ら、続けて良かったと思っています。

又、日本リーグ、国体、等大きな大会のお世話が出来、今では、良い思い出になっています。今後は、楽しんで、そして健康を大事にして、細く長く続けていけたらと思っています。福岡市バドミントン協会の今後のご活躍をお祈り致します。

「バドミントン」

◇　板付ジュニア（小学５年）馬渡　さくら　◇

私がバドミントンを始めたきっかけは、姉がバドミントンを習っていたからです。姉が練習をがんばっているのを見て、私もやってみようかなと思い入りました。入ってみると、最初練習はきつかったけど、試合に出て勝ったり負けたりしていくうちに、もっと勝ちたいと思うようになり、練習をたくさんしています。

今、私が一番練習をしているショットは、クリアーです！試合中にクリアーを飛ばしても真中までしか飛ばなかったり、ねらったコースにいかなかったりします。だから、確実に出来るようにがんばっています。

私は今、バドミントンを習っていてよかったと思います。これからも、ひとつずつ上を目指してがんばっていきたいです。

「バドミントンをはじめて」

◇　板付ジュニア（小学５年）松浦　なる　◇

私は、１年生のときにバドミントンを始めました。母のバドミントンについて行ってみたとき、シャトルを打っているのを見て、かっこいいなと思い、板付ジュニアに入りました。最初は練習がきつくて休んでしまったり、シャトルを打っても思いどおりの場所にいかなくていやになったときもあったけど、そこをがんばって、体力をつけたりいろんな練習をして、なにか１つでもできるようになったときは、とてもうれしかったです。試合で、初めほとんど負けていたので、弱いところを強化したりしたけど、やはり何回か練習しただけではなかなかできませんでした。でもがんばっていっぱい練習すると、試合で勝ちはじめて、４年生で初めて優勝したときに、もっと練習してもっと強くなりたいと思いました。これからは上の大会で勝っていけるように、たくさん練習して強くなりたいです。

「バドミントン」

◇　板付ジュニア　　（小学６年）久保　明香里　◇

私は、３年生から板付ジュニアバドミントンクラブに入って練習しています。バドミントンを始めたきっかけは、父がバドミントンをしていて、勧められたからです。毎日の練習の中で、今は、やっとバドミントンの楽しさが分かって来ました。技術的にはまだまだですが、ねばれるようになって、試合で勝てるようになって来ました。

これからも、一生懸命練習して、もっと強くなりたいです。私は今、板付ジュニアのキャプテンをしています。みんなをまとめて行くのは、大変ですが、板付ジュニアが強くなれるように、引っぱって行こうと思います。

「中国とバドミントン」

◇　南区　柏原クラブ　鈴内　充雄　◇

私は今中国広東省に海外勤務しています。バドミントンをしている人であれば中国は世界で１番と知っていますが、中国国内の人たちは意外と認識していません。なぜならば中国ではバドミントンは高級なスポーツで誰でもすぐにやれるスポーツではありません。一般の人たちは市町村で体育広場があり、その広場にバドミントンコートが有り遊びでハネツキ程度のことをしているだけで、体育館（羽毛球会館）で本格的にしているのは中級クラスで生活に余裕のある人達だけです。

中国の代表選手はバドミントンが職業であり日本のように実業団に登録し仕事しながらバドミントンをしているわけではありません。中国ではまだまだ貧富の差が激しく中国全体の人口に対しバドミントン人口は極わずかです。福岡のように学校体育館の開放や各地域でのバドミントン活動及び学校クラブ活動、家庭婦人の活動等こんなに恵まれた環境の中でバドミントンが出来ることを有難く思わなければなりません。このような気持ちになれるのは海外に出て初めて今までの環境が素晴らしいか分かることです。今後この気持ちを忘れずに自分の出来る範囲でバドミントン活動に貢献出来ればと思っています。

「４０周年誠におめでとうございます。」

◇　早良区レディース連絡会　会長　河内山　由利子　◇

成人したばかりの若者が還暦を迎える程の長い年月。バドミントンというスポーツが広く一般的に知られていないような時代に協会を立ち上げ、維持し、今日のような大きな組織に発展された多くの先輩方の努力に感謝するとともに、敬意を表させて頂きます。

私自身、ふとしたことから始めて３０余年のバドミントンが、今や体の一部となり、生活の大部分となってしまうとは思いもしませんでした。それこそ“羽根つきくらい”の軽い気持ちで持ったラケット。それを使いこなす難しさに驚き、その奥の深さにハマリ、競

技性の高さに魅せられて今日まで参りました。決して身体に優しくない種目ですが、無理や無茶をしなければ、生涯スポーツとして末永く続けて生けると思います。より多くの方に、より長く楽しんでいただけるように、レディース団体としても微力ながら、お手伝いさせていただければと、思っております。

福岡市バドミントン協会が、さらに大きく飛躍されますよう心から願っております。

◇　百道ジュニアバドミントンクラブ　姪浜中学校三年　白井　美羽　◇

私がバドミントンを始めたのは、小学一年の時、きっかけは友達からの紹介でした。最初は、ただなんとなくという気持ちでしたが、学年が上がるにつれて「勝ちたい」という気持ちも増してきました。

私は小学五年とき、香川県から福岡県へ引越ししてきました。福岡に来てはじめての大会で、二位という成績を収められたときの喜びは、今でも覚えています。

しかし一方で挫折したこともありました。思うようなプレーができなかったり、勉強との両立ができなかったときなど、辞めたいと思ったこともありました。それでも今、こうして続けていられるのは、友達の存在と、何よりもバドミントンを好きという気持ちからです。

「継続は力なり」ということわざがありますが、この言葉を、私は身をもって学ぶことができました。そして、それによって「信念」をもつこともできました。

これからも、あきらめない心と、惜しみない努力で、何事にも挑戦していきたいと思います。

「福岡市バドミントン協会創立４０周年に寄せ」

◇　バドグラフィティ　結城　亮二　◇

初めて協会の大会に出場したのは６年前、２００５年４月の春季市民大会でした。当時の私は縁もゆかりも無い福岡に就職したばかり。当然友人もおらず、学生時代に打ち込んでいたバドミントンの道具こそあったものの、相手は無し。市の大会にエントリーすれば、誰かいい人が見つかるかもしれないと、すがる気持ちで出場したのを覚えています。

その試合は確か準決勝で敗退。結局その負けた相手に頼み込んで目論見どおり（？）チームに入れてもらい、今ではそのチームの代表にもなってしまいました。

僕にとっての協会は、今のチームと引き合わせてくれたキューピットのような存在ですね（笑）。これから５０年、１００年と続いていって欲しいし、僕のように新しく福岡に来た人が、バドミントンが始められやすいような、情報発信をしっかりして、門戸を広く開けっぱなしにしている協会でいて欲しいと思います。

「 バドミントンとであって４７年」

◇　百道クラブ　百道ジュニア　大庭　武志　◇

福岡市バドミントン協会創立４０周年おめでとうございます。

皆様お元気でしょうか。早いものでバドミントンに出会って４７年目になります。私は西南大にバドミントンを始めました。中学・高校と運動部とは全く縁がなく、大学に入ったら何か運動したいと思い、色々と迷いながら、たまたまバドミントン部の部室を除いた時、そこにいた先輩に強く勧められたのがきっかけとなりました。その当時は、現在福岡市バドミントン協会副会長の秋山さん達のいる福岡大が県内は勿論、九州の大学の中では常にトップで、大学から始めた素人の私にとって、大学は違うけど確か二つ上の秋山先輩の華麗なステップワーク、そしてバックハンドから繰り出されるクリヤー、ドロップ、スマッシュは憧れの的でした。大学卒業後も、強くなりたいという気持ちで仕事のかたわら、週１～２回の練習を続けてきました。

福岡市バドミントン協会との関わりは、今から３０数年前になると思います。現在も７０歳を超えて現役のプレイヤーとしてご活躍の木下一郎さんが福岡市の理事長に就任された時、一緒に協会の仕事をさせて頂きました。丁度福岡市の家庭婦人（今はレディース）の連盟を立ち上げる頃だったと思います。大会も今のように多くはなく、個人戦では春と秋の市民戦が主な大会でした。春の大会に負けると秋の大会では勝ちたいと思って練習したものです。其の頃も年代別で大会がありましたが、５０才代・６０才代でプレーをしている人は数える程しかいませんでした。今は全国シニア大会に出場しても６０才代・６５才代・７０才代の参加者は多く、私も５０才代から毎年参加していますが、ベスト８に残るのは厳しい戦いになっています。

ジュニアから大人まで男性も女性も競技人口が大幅に増え、更にプレーを楽しむ年齢層も高くなっています。バドミントン関係者の一人として大変嬉しく思っています。又、自分のプレーを楽しむかたわら、小学生・中学生の指導を長年続けてきました。丁度今年で３０年になります。以前に比べると週４回と練習量が増え、九州大会・全国大会に出場する子供達も出てきましたが、指導方針の柱は「努力を続けることの大切さ」そして周りの人に対し「感謝の気持ちを忘れない」であり、昔も今も変わりません。指導した子供達が高校生・大学生になり、そして社会人となり、将来結婚した後もバドミントンを続けてくれることが一番の喜びであり、楽しみでもあります。

今後ともジュニアの普及と指導には、自分の経験を活かし、微力ではありますが関わっていきたいと思っています。又、県内のみならず全国の同年代のシニアの皆さんとの親睦と交流の和も更に深めていきたいと思っています。

最後になりますが、福岡市バドミントン協会のますますのご繁栄とご発展を祈念申し上げます。

「すばらしいスポーツ」

◇　百道ジュニア　原北中学校一年　　添田　真一　◇

バドミントンとは簡単なスポーツでありません。努力に努力を重ねていかないと強くなれないものです。バドミントンは他では味わえない楽しさがあります。負けることによっての悔しさで、もっと努力しようと思う気持ちになり、勝つことによってのうれしさで、努力したことの達成感を感じることができます。

「バドミントン」。このスポーツは周りから見たらサッカーや野球に比べて、たいしたことないスポーツと、見られるかもしれません。しかし、ぼくはそうは思いません。思ったよりも体力がいり、とても激しい競技です。確かに野球やサッカーに比べてやっている人は少ないです。でもぼくは、バドミントンは素晴らしいスポーツだと思います。

これからは、この素晴らしいスポーツを続け、常に上を目指して努力していこうと思います。

結び

福岡市バドミントン協会理事長緒方蓉子が協会の現状と展望を次のように語る。

「福岡市バドミントン協会は、福岡市のバドミントンを振興し、その健全な普及・発展並びに会員相互の親睦を図ることを目的として活動を行っています。

福岡市バドミントン協会は辰市祐昭名誉会長をはじめ諸先輩方の普及・振興による多大な貢献により、創立４０周年を迎えることができました。福岡市バドミントン協会は職域、地域、クラブ、大学、高校、中学校、ジュニアなど、平成２２年３月現在１３９団体が加盟し、２，７００余名が個人登録し、当協会役員、理事、各専門委員会の活動で各種大会、指導者、審判員の育成、各種教室で組織もかなり充実してきました。

今年度から新日本製薬株式会社さんから福岡市バドミントン協会にサポートのご依頼が有り、ジュニア強化費・審判員育成費等に有効活用させて頂き、より一層レベルを高めて新日本製薬株式会社さんのお気持ちを大切にしていきます。

今後は福岡市内に留まらずに国際的視野を持って当協会が発展していくように努力していきたいと思っています。」

Ⅶ.　登録団体一覧

No.	団　体　名	NO	団　体　名	NO	団　体　名
【東区】	２２団体	5	南当仁シャトルズ	11	堤ジュニアバドミントンクラブ
1	和白東バドミントンクラブ	6	福岡市役所	12	県立城南高等学校
2	千早バドミントンクラブ	7	クラブ友	13	福岡大学バドミントン部
3	かようクラブ	8	チームＴ’Ｓ	14	市立城南中学校バドミントン部
4	香椎浜バドミントンクラブ	9	AAクラブ	15	市立博多工業高校
5	ＥＢＣ	10	福浜ジュニアバドミントンクラブ	16	サタナイクラブ
6	福工大附属城東高等学校	11	福岡大学附属大濠高校	17	チャレンジジュニア
7	香住ケ丘ジュニアバドミントンクラブ	12	福岡大学附属大濠中学校	【早良区】	１８団体
8	香住ケ丘バドミントンクラブ	13	泰星高等学校	1	百道クラブ
9	名島バドミントンクラブ	14	モンキーポッド	2	藤崎バドミントンクラブ
10	九州大学教職員バドミントンクラブ	15	九州女子高校	3	バードクラブ
11	奈多バドミントンクラブ	16	バドグラフィティ	4	原バドミントンクラブ
12	香椎バドミントンクラブ	17	大名しゃとるクラブ	5	早良クラブ
13	あおぞらクラブ	【南区】	２４団体	6	百道ジュニアバドミントンクラブ
14	クリオクラブ	1	三宅ジュニア	7	ペガサスクラブ
15	舞松原バドミントンクラブ	2	花畑バドミントン	8	西南学院大学バドミントン部
16	九州大学	3	バドミントンクラブジュニア長住	9	西新バドミントンクラブ
17	市立福岡中学校	4	大池バドミントンクラブ	10	田村クラブ
18	九州産業大学	5	野多目クラブ	11	県立修猷館高等学校
19	博多女子中学・高等学校	6	東花畑バドミントンクラブ	12	百道中学校
20	香椎高等学校	7	老司クラブ	13	県立福岡高等聾学校
21	海老津ジュニア	8	横手クラブ	14	Club’B’
22	ＳＳＳ	9	大池ジュニアバドミントン	15	スーパーショット
【博多区】	２０団体	10	柏原クラブ	16	JB クラブ
1	FCC	11	弥永西バドミントンクラブ	17	スピッツ
2	博多クラブ	12	西高宮バドミントンクラブ	18	福岡工業高等学校定時制バドミントン部
3	スマッシュクラブ	13	福翔高等学校	【西区】	２１団体
4	福岡県庁	14	三宅中学校	1	周船寺バドミントンクラブ（SBC）
5	弥生バドミントン	15	福岡女学院中学高校バドミントン部	2	シーガルクラブ
6	ネオ・ビー	16	県立筑紫丘高等学校	3	愛宕浜
7	住吉バドミントンクラブ	17	福岡第一高校	4	ウエストシャトル
8	美野島倶楽部	18	老司中学	5	県立筑前高校
9	那珂南バドミントンクラブ	19	福岡市立横手中学校	6	能古島クラブ
10	Team A	20	福岡女学院大学	7	内浜中学校バドミントン部
11	博多青松高等学校	21	みやけシャトル	8	城の原バドミントンクラブ
12	福岡高等学校バドミントン部	22	塩原クラブ	9	福岡女子高校
13	精華女子高等学校	23	Be-FreeZ	10	玄洋中学校女子バドミントン部
14	板付中学校	24	ＳＴＡＹ　ＧＯＬＤ	11	市立小呂中学校
15	西日本シティ銀行	【城南区】	１７団体	12	市立元岡中学校バドミントン部
16	板付ジュニアバドミントンクラブ	1	長尾バドミントンクラブ	13	玄洋中学校男子バドミントン部
17	東吉塚バドミントンジュニアクラブ	2	福岡大学職員バドミントン同好会	14	フェニックス
18	ヴィンテージ福岡	3	七隈バドミントンクラブ	15	福岡西陵高等学校
19	西部電気工業(株)	4	城南Hiクラブ	16	能古中学校
20	ビクトリージュニアバドミントンクラブ	5	片江クラブ	17	SUN クラブ
【中央区】	１７団体	6	堤バドミントンクラブ	18	福岡舞鶴高等学校
1	当仁クラブ	7	フレンズクラブ	19	クラブ・クローバー
2	高宮バドミントンクラブ	8	金山シャトルズ	20	下山門バドミントン
3	バドミントン　クリア	9	城南クラブ	21	さくらんぼクラブ
4	シャトル赤坂	10	ラブオールジュニア	【合計】	１３９団体

平成21年度　福岡市バドミントン協会個人登録内訳

	社会人1	大学生2	高校生3	中学生4	小学生5	合計
東　区	180	113	70	47	11	421
博多区	157	1	54	44	34	290
中央区	152	4	39	61	23	279
南　区	133	21	116	202	48	520
城南区	82	37	62	110	21	312
早良区	121	55	52	72	38	338
西　区	119	1	171	250	10	551
合　計	944	232	564	786	185	2,711

Ⅷ.　福岡市バドミントン協会規約

第 1 章　総　　則

〔名　称〕

第 1 条　この会は、福岡市バドミントン協会（以下「会」という。）といい、外国人に対しては、 The Fukuoka Badminton Association（略称 F. B. A.）という。

〔事務所〕

第 2 条　本会は、事務所を福岡市に置く。

〔組　織〕

第 3 条　本会は、福岡市に所在または居住する学校、各種団体または個人のバドミントン愛好者によって組織する。

〔目的及び事業〕

第 4 条　本会は、福岡市内におけるバドミントン界を統括し、代表する団体としてバドミントンを振興し、その健全な普及発達を図ることを目的とする。

第 5 条　本会は、前条の目的を達成するため下記の事業を行う。

(1)　バドミントンに関する研究調査

(2)　バドミントンに関する講習会・講演会・研究会の開催

(3)　福岡市内におけるバドミントン競技大会の開催

(4)　県協会の競技大会の主管

(5)　その他、この会の目的達成に必要な事項

〔加盟、脱退〕

第 6 条　本会に加盟するには、本会で定めた加盟料を納入し、会長に申請して理事会の承認を受けなければならない。おいて理事現在数及び評議員現在数の各々の 3 分の 2 以上の賛同を得て、加盟団体となる

2　本会の加盟団体または個人で、会の目的に違反する行為があった場合は、理事会の議決を経て、会長がこれを脱会させるものとする。

第 2 章　役員及び評議員

〔役　員〕

第 7 条　本会に、下記の役員を置く。

(1)　理事 40 名以内（うち、会長 1 名、副会長 3 名以内及び理事長 1 名、副理事長 1 名とする。）

(2)　監事 2 名

2　前項の定める者のほか、名誉役員として名誉会長、顧問及び参与を、理事会の同意を得

て会長が委嘱す ることができる。
〔役員の任務及び任期〕
第 8 条 本会の役員は、次の任務を行い、その任期は 2 年とする。ただし、再任を妨げない。
(1) 会長はこの会を代表し会務を統括する。
(2) 副会長は会長を補佐し、会長事故ある時はその職務を代行する。
(3) 理事長は、理事会の決定するところにより業務を執行する。理事長は、会長、副会長事故あるときは、その職務を代行する。
(4) 理事は理事会を組織し、本会の業務を決定し、執行する。
(5) 監事は、本会の会計を監査する。
2 役員に欠員を生じたときは、理事会において選出し、その任期は前任者の残任期間とする。
3 役員は、任期満了後においても、あらたに後任者が就任するまでは、引続きその任務を行う。
〔役員の選出方法〕
第 9 条 本会の役員は、次の各号により選出する。
(1) 会長及び副会長は、理事会で推薦し、総会で決定する。
(2) 理事は、総会で決定し、理事長、副理事長は、理事の互選によって選出し、会長が委嘱する。
(3) 監事は、総会の同意を得て会長が委嘱する。
〔評議員〕
第 10 条 本会に評議員をおく。
(1) 評議員は加盟団体 1 名をもって、これに当てるものとする。
(2) 評議員が役員に就任したときは、評議員の資格を失う。この場合は、その者の属していた加盟団体から、これに代わる評議員を選出する。

第 3 章 会 議

〔総会、理事会、委員長会、委員会〕
第 11 条 本会に総会、理事会、委員長会及び専門委員会を置く。総会・理事会は会長、委員長会は理事長、専門委員会は各委員長が招集する。
(1) 総会は、第 7 条の役員、加盟団体より選出された 1 名の「評議員」で組織し、本会の議決機関と し、年 1 回開く。
ただし、会長が認めた場合及び評議員の過半数の求めがあれば、臨時総会を開催しなければならない。
(2) 理事会は、必要に応じ開催し、会長、副会長、理事長、副理事長、理事で構成する。
(3) 理事会の議長は会長とする。
(4) 委員長会は、理事長、各委員長で構成する。

(5)　専門委員会に関し、必要な事項は別に定める。

〔所掌事務〕

第 12 条　総会・理事会及び専門委員会は、次の事務を掌握する。

(1)　総会

①事業及び決算報告 ②事業計画及び予算 ③規約の変更④役員の選出 ⑤各種団体への加盟及び脱退 ⑥その他

(2)　理事会

①予算の執行 ②事業の執行 ③その他

(3)　専門委員会

①別に定める事項に関すること。 ②その他

〔会議の成立〕

第 13 条　総会は「評議員」の過半数の出席がなければ成立しない。ただし、委任状により権限を委任することができる。

2　各会議もこれに準ずる。

〔会議の議決〕

第 14 条　本会のすべての会議の議決は、出席者の過半数の同意を得なければ成立しないただし、規約の改廃は出席者の 3 分の 2 以上の同意を得なければならない。

第 4 章　　専決処分

〔理事長の専決処分〕

第 15 条　理事長は、緊急を用する場合に限り、会長の同意を得て専決し、執行することができる。

第 5 章　　会　　計

〔会計年度〕

第 16 条　本会の会計年度は、毎年 4 月 1 日に始まり翌年 3 月 31 日に終わる。

〔経　費〕

第 17 条　本会の運営に必要な経費は、次の収入をもってあてる。

(1) 加盟料

(2) 公共団体より交付された補助金

(3) 事業に伴う収入

(4) その他の収入

2　加盟料は、団体登録料及び個人登録料とする。

(1) 団体登録料は、一団体 3，000 円とする。尚、ジュニアクラブ並びに中学校は免除する。

(2) 個人会員登録料は、1 人 200 円とする。尚、小学生並びに中学生は 100 円とする。

〔会計報告〕
第 18 条　会長は、会計年度終了後に会計報告書を作成し、監事の意見を付し、総会の承認を受けなければならない。

第 6 章　　賞　　罰

〔賞　罰〕
第 19 条　本会の振興発展に貢献し、その功績が顕著な団体もしくは個人は、理事会の承認を得て、会長がこれを表彰する。
第 20 条　本会の目的に違反する行為があった場合は、会長の権限において処理し、理事会に報告するものとする。

第 7 章　　慶　　弔

〔慶　弔〕
第 21 条　慶弔に関する事項が生じた場合は、会長の権限において処理し、理事会に報告するものとする。

第 8 章　　雑　　則

〔雑　則〕
第 22 条　この規約の施行に関し、必要な事項は会長が定める。
付則
この規約は昭和 45 年 4 月 1 日より実施する。
付則
この規約は平成 13 年 4 月 1 日より実施する。
付則
この規約は平成 14 年 4 月 1 日より実施する。
付則
この規約は平成 17 年 4 月 1 日より実施する。
付則
この規約は平成 19 年 4 月 1 日より実施する。
付則
この規約は平成 21 年 4 月 1 日より実施する。

Ⅸ.　福岡市バドミントン協会専門委員会設置要綱

第１条　この要綱は、福岡市バドミントン協会規約第１１条（４）に基づき、次のように定める。

第２条　専門委員会は福岡市バドミントン協会に必要な事項を専門的に調査研究する。

第３条　専門委員会は次のとおりとする。

（１）総務委員会

財務(予算、決算、経理)

組織運営（登録、市組織運営）

会議（総会、理事会、委員長会議等の準備）

他団体との交渉・連絡

大会等の参加料の検討

表彰に関する事項

大会要項等の作成発送

その他

（２）競技審判委員会

競技部

競技会の企画・開催・運営および指導

競技規則に関すること

組み合わせ会議等の準備

その他、競技に関する事項

審判部

審判員の育成ならびに技術の向上

審判員組織の強化

審判員名簿の作成および管理

公認審判員制度に関する事項

その他、審判員に関する事項

（３）指導委員会

指導者の育成

スポーツ教室等への指導者派遣、研修

ジュニア講習・交流に関する事項

その他、指導に関する事項

（４）広報普及委員会

広報（HP）に関する事項

活動状況の把握および加盟の促進
国際交流に関する事項
その他、広報・普及に関する事項

第４条　委員は福岡市バドミントン協会の理事をもってあてる。

第５条　専門委員の所属は理事会で決定する。

第６条　委員長、副委員長は各専門委員会の互選とする

第７条　専門委員の任期は福岡市バドミントン協会理事の任期に準ずる。

第８条　この運用に関し、必要な事項は理事会で決定する

附則

この要項は平成１０年　　４月　　１日から施行する

附則

この要項は平成１３年　　４月　　１日から施行する

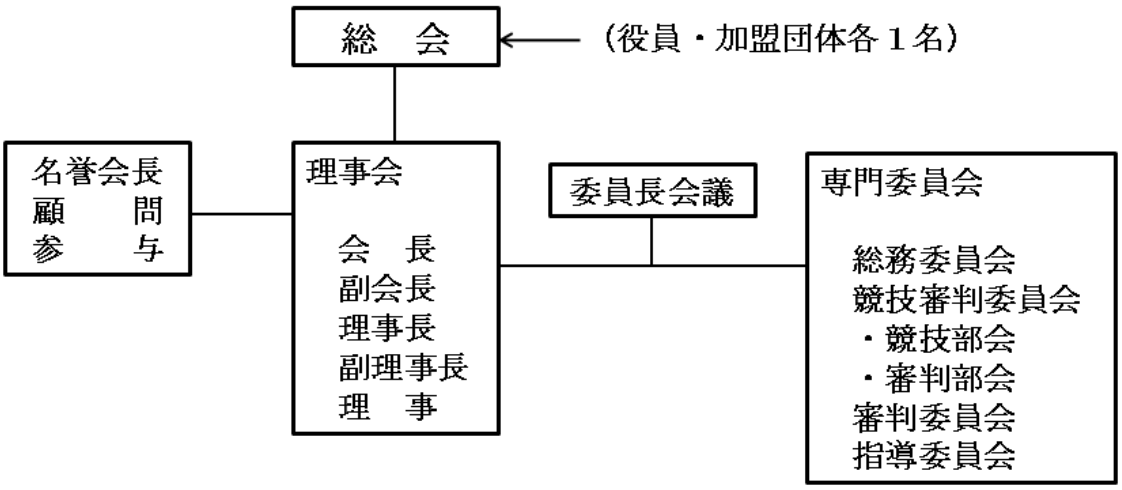
附則

この要項は平成１５年　　４月　　１日から施行する

附則

この要項は平成１９年　　４月　　１日から施行する

Ⅹ．　福岡市バドミントン協会組織図



ⅩⅠ．　平成２１・２２年度役員名簿

名誉会長	辰市　祐昭	会　　長	佐々木　徹
参　与	伊藤　篤治	副会長	秋山　晴一
参　与	木下　一郎	副会長	佐竹　養一
		副会長	古川　英昭
監　事	重松　利幸	理事長	緒方　蓉子
監　事	小森　幸子	副理事長	日髙　義治

	総務委員会	競技審判委員会		指導委員会
		競技部会	審判部会	
委員長・部長	栗原　克志	原田　孝敏	吉田　信子	田中　恵子
副委員長	梅田　眞澄	加藤　信	岩崎　重男	佐田　聡
副委員長	山口　ひとみ	佐久間　悟	森山　ふくえ	豊田　みどり
委　　員	坂根　典子	坂口　輝敬	石崎　幸平	塩田　泰宏
委　　員	谷川　聡	安部　瑞穂	山本　照代	川崎　浩
委　　員	立石　匡志	柳田　吉郎	権藤　直之	
委　　員	永松　立子	森　　豊	安武　寿子	
委　　員	高武　直美	安川　修市	岩橋　マユミ	
委　　員	妙見　鉄也	坂口　博恵		
委　　員		波多江　貞弘		

福岡市バドミントン協会４０年史編集委員

編集委員長　　古　川　英　昭

編集委員　　緒　方　蓉　子　　宮　崎　和　彦

編集後記

この記念誌作成にあたり、今年度に入り編纂作業に着手して、厳しい状況の中、ご協力を頂いた各方面の皆様に多大なご迷惑をおかけした事をはじめにお詫びいたします。

各区会長さんや副会長さん、区のバドミントン愛好者の皆さんまた実業団、団体の方々から暖かい心の籠った寄稿文を頂き誠に有難うございました。

参考資料として、藤本俊史氏（当時、協会理事広報委員長）の３０周年記念誌を編纂された、文献を参考に作成をしました。

ここに各方面の皆様に改めて御礼を申し上げます。

福岡市バドミントン協会４０周年編集委員

福岡市バドミントン協会４０年史

2010 年 9 月 10 日　印刷

2010 年 9 月 20 日　発行

編集／福岡市バドミントン協会 40 年史編集委員会

発行／福岡市バドミントン協会

〒812-0044　福岡市博多区千代４丁目２９番４９号

グローリー県庁前２０３号室

印刷　（有）ユーザック　宮崎和彦

〒814-0133　福岡市城南区七隈６－２－２